年頭のあいさつ

予測困難な時代を生き抜く力を育む

岡山県教育委員会教育長
鍵　本　芳　明

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。新しい年を迎え、本県の教育が益々充実したものとなりますよう、精進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新しい学習指導要領が、小学校、中学校と本格実施され、昨年は高校においても1年生から年次進行で実施されています。その中で、私が最も心に刻んでおくべきと考えるのは、その前文にある「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」という文章です。なかなか終息に至らないこのコロナ禍に代表されるように、世の中が「予測困難な時代」となる中では、ただ単に多くの知識を頭に詰め込むだけでなく、その知識をどう使い、自分の人生や社会のためにどう生かそうとするのかということがとても重要になってきています。

そして、子どもたちにこうした力を育むためには、「教師が教える授業」から「子どもたちが学ぶ授業」への転換が是非とも必要です。もちろん、教師がきちんと教え理解させなくてはならない内容はたくさんあります。しかし、これからの急激な変化に対応していくためには、子どもたちは生涯にわたって学び続けていくことが必要であり、私たちはこれまでの指導観を転換し、子どもを「主語」にした授業や活動の中で、「自己決定する場」を設けながら、その「主体性」を育んでいかなくてはならないと考えるのです。

新学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められているのも、本県で、教科横断的視点に立って「総合的な学習（探究）の時間」等を活用し、ＰＢＬ（課題解決型学習）を積極的に推進しているのも、社会に出てから生きて働く「実践的な力」を身につけさせなければならないという考えからです。

さらに、その中で先生方が「子どもたちに育てたい力」を意識し、伴走しながら子どもたちの価値ある行動をしっかりと見取り、子どもたちにフィードバックして意識付けることで「意欲」や「自信」「忍耐力」「コミュニケーション力」といった学びを支える「非認知能力」も伸ばしていきたいと考えています。

「主体性」を育てるということは、そう簡単なことではありません。「主体的になれ」といくら言ってもなれるものではありません。まず、すべきことは、子どもたちに多くのことを経験させたり、素敵な人々に出会える機会を増やすことで、「やってみたいな」「ああなりたいな」という小さな「夢」に出会わせることです。そして、学校の先生方やご家庭の皆さんには、子どもたちの「夢」を肯定的に受け止め、その応援団となって、背中をそっと押してほしいのです。そうすれば、子どもたちの小さな「夢」は、「学びの原動力」となり、やがて前に進む力（＝「主体性」）へとつながっていくと私は信じています。